令和６年度（2024年度）第１回後志地域いじめ問題等対策連絡協議会

後志地域いじめ問題等対策連絡協議会事務局（後志教育局）

令和６年（2024年）７月10日（水）、後志合同庁舎において、管内における生徒指導上の諸課題への対策の推進を図ることを目的として、「令和６年度（2024年度）第１回後志地域いじめ問題等対策連絡協議会」を開催しました。会議には、警察や人権擁護委員協議会などから20名が出席し、各機関での取組について協議を行いました。会議の主な内容は次のとおりです。

安心して学ぶことができる環境づくりに向けた後志管内の取組

実践発表

北海道倶知安農業高等学校
「安心して学ぶことのできる環境づくり」
発表者：片野佑哉さん、辺見愛心さん、船山隼颯さん

○　**発表の概要**
- 本校では、農業を通して生徒が直接「生命」と関わることにより、「生命の尊さ」を知ることができる。
- 自分の育てた作物の収穫や研究発表を通して、達成感や自己肯定感を養うことができる。
- 「課題研究」の授業では、プロジェクト学習を通して２、３年生が合同で活動する場も多く、学年関係なくお互いに頼り、頼られる関係性を構築することができる。
- 授業や専門的な研究を通して、地域との連携や農業クラブの大会等への参加や、学校以外の人との交流を通して、他者を尊重する気持ちを醸成することができる。
- 町内施設で花壇を造成し、町の景観のデザインに関わることで、自分が町の一員として町づくりに関わっているという意識の向上と、人や町の役に立ちたいという意欲を高めることができる。
- 「のうこうのお店」、「収穫祭」などでの販売会、「じゃが祭り」などのイベントに学校全体で参加することにより、倶知安農業高生としての一体感をもつことができる。

○　**参加者からの感想**
- 命の大切さを実感できることはとても重要なことであり、学校でそのことを学べるのは保護者としても安心できる。
- 自己肯定感の低さがいじめにつながると考えられることから、学校で自己肯定感を高める取組や居場所づくりが行われていることは素晴らしい。

各所属における取組の成果（○）と課題（●）等

協議

○　町全体で、健常者も障がい者も安心安全と思える居場所づくりに取り組んでいる。
○　自己肯定感を高めるために、ちょっとした成長を誉めてあげる活動に取り組んでいる。
○　人権の花運動は、花を育てる過程で、周りの人に対して優しい気持ちをもってほしいと願って行っている。
○　サポート企業として、親が頑張っている姿を子どもが見る「子どもの参観日」を実施している。
●　地域が子ども・学校と連携するために、今後も地域行事を開催する必要がある
●　いじめにおいて、加害者、被害者ではない周囲の生徒への働きかけが必要である。
●　身近な大人に相談できるツールとして、電話、メール、通話アプリの他、ＳＯＳミニレターのように匿名性が高い相談ツールを活用できることを周知する必要がある。

○　**倶知安農業高校・辺見愛心さんからの感想**
　問題に対して声を上げることのできる環境づくりが大切だと感じた。本校は、教員と生徒の距離が近く、相談しやすい環境であることから良い学校であると再確認できた。

まとめ　子どもが安心して学ぶことができる環境の確立に向けて、「情報の発信と行動の連携が重要」

○　令和６年度（2024年度）第２回後志地域いじめ問題等対策連絡協議会では、今年度の後志管内教育推進の重点（子どもが安心して学ぶことができる環境の確立）に基づいた各学校、機関の実践事例報告、意見交流を行います。